

5. 認知症など精神・行動疾患

文献

七堂利幸、有地滋、森悦子、ほか. 不定愁訴に対する針灸効果-比較試験- 全日本鍼灸学会誌 1982; 32(1): 33-43. 医中誌 Web ID: 1983164007

1. 目的

不定愁訴に対する針灸効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

有地内科梅田診療所、大阪、日本。

4. 参加者

不定愁訴症候群と思われる 20 歳～閉経前の女性 20 名。年齢と症状数でマッチングを行った。両群の平均年齢 (37.9±8.4～43.1±6.4 歳)。

5. 介入

Arm 1: 試験群 (10 名)。湯液エキス治療+愁訴に応じた針灸治療。

Arm 2: コントロール群 (10 名)。湯液エキス治療のみ。

約 20 分間を週 2 回、2 週計 4 回。

6. 主なアウトカム評価項目

患者判定による 5 段階評価 (全般的改善度、日常生活支障度、症状別効果)、および MV (Microvibration) の α 波、 β 波、 θ 波エネルギー%変化

7. 主な結果

患者判定による全般的改善度に関して、針灸群の有効率は 60%、対照群は 10% で有意に有効な傾向がみられた ($P=0.086$)。症状別評価に関して、「肩こり」の 2 週目において、針灸群が対照群に比し有意に有効な傾向があった。MV 変化に関しては、2 週目と初回のエネルギー%値の差を両群で比較したところ、針灸群で、 θ 波は有意に増加し、 β 波は有意に減少の傾向がみられた。

8. 結論

湯液治療に針治療を加えることで、不定愁訴症候群の患者判定による全般的改善度は改善する。

9. 鍼灸学的言及

針主体の治療で、圧痛、硬結、筋緊張等を目標に、被験者の愁訴に応じた部位に行う。

10. 論文中の安全性評価

副作用は認められなかったとの記載あり。

11. Abstractor のコメント

針灸の比較試験の報告が、痛みに関するものが中心となっているなかで、不定愁訴に関する比較試験を行ったことは十分評価できる。一方、臨床試験であることから、被験者は、それぞれの症状に適応した湯液が処方され、針治療も被験者の愁訴に合わせるため異なる部位に行われている。さらに、施術者が 5 人いるが、施術者それぞれの技量に関しては検証がなされていないなど、試験の再現性が厳しい点が惜しまれる。不定愁訴は試験による評価が難しい中で、N の値が比較的小さくても、結果につながる可能性が高くなる Matched pair で逐次検定を採用したり、患者自覚の有効率の算出を工夫するなど、分析は非常に論理的で、将来へ繋がる研究であるといえる。

12. Abstractor

小橋智子 2011.1.8